

対話する喜びを感じる外国語科・外国語活動

～学年に応じた言語能力に着目して～

1. 設定理由

2020 年度の新指導要領完全実施に向け、小学校外国語科・外国語活動がめざす児童の姿及び指導内容、方法について検討が進められている。グローバル社会において必須の英語を身につけ、他者と進んで関わる
ことができる児童の資質・能力を高めていくことは喫緊の課題である。そこで本校では、学年に応じた言語
材料や表現を吟味し、指導方法を工夫してそれらを楽しみながら身につけさせることを通して、他者と関わ
ることの喜びを感じ、さらに国際的志向性・Willingness to Communicate 等の意欲を高めていきたいと考え、
本主題を設定した。

2. 研究の視点

- 学年や単元に応じた英語表現を確実に身につけることで、対話に喜びを感じ、コミュニケーションの意欲
を高めることができたか。
- 授業のねらいを明確に定め効果的に手立てを講じることで、児童が英語表現を理解し、慣れ親しませるこ
とができたか。

3. 研究内容

2017 年 7 月に行われた 3 つの研究授業 (1 年生・3 年 1 組・6 年 2 組) に関わる単元全時間について、実
践を追いながら検証・考察を行った。

○WTC、動機づけ、自信等の情意面について単元前後に質問紙調査を行い、集計した。

※質問紙は、物井尚子(2015)『日本人児童の WTC モデルの構築 -質問紙調査からみえてくるもの-』日本児
童英語教育学会 (JASTEC) 研究紀要第 34 号、1-20. を参考に作成。

○授業で学習した言語事項の理解度をプレ&ポストテスト (紙面・インタビュー等) を使って測定した。

○学級全体及び抽出児童の学びを見取り、情意面・技能面で各手立てについて検証した。

○3 つの実践を通して、2 つの視点で情意面と技能面の統計分析 (t 検定・相関分析) を行った。

4. 結論 (成果○と課題●)

○学年に応じた言語材料を精選し、表現に気づく工夫や深く慣れ親しむ手立てを講じていくことで、ターゲ
ットの英語表現を身につけ、生き生きとやりとりさせることができた。

○英語表現の定着により、その表現についての認知が高まり、さらには様々な視点でのコミュニケーション
の意欲につながっていくことがわかった。

●英語表現の定着については、未だに個人差が大きかった点は否めない。指導時間数や取り入れる活動の質、
難易度など、さらに研究を深めていきたい。

●授業を通して、コミュニケーション意欲に関する数項目について相互の関連を強めることはできたが、そ
れぞれを高めるための指導方法の再検討や、今回該当していなかった項目との関連をさらに高めていける
ような授業改善を今後も推進していく必要がある。

「対話する喜びを感じる外国語科・外国語活動」

～学年に応じた言語能力に着目して～

1. 研究主題・副題について

(1) 2016年度までの研究

本校は、2016年度までの2年間、文部科学省指定の教育課程特例校として、さらに佐倉市教育委員会の研究モデル校として外国語活動の研究にとりくんできた。研究テーマを「Let's Enjoy English～コミュニケーション能力の向上をめざして～」と設定し、研究の視点を明確にして授業改善や環境整備を進めてきた。それらの視点及び成果は以下の通りである。

<昨年度の研究の視点と成果>

視点	成果
1. HRTとALTの役割の明確化	・ALTとHRTとのミーティングを十分確保し、役割分担を行っていったことで、Classroom Englishをスムーズに活用できたり指導者の演示や動きが児童にとっての理解の助けになったりした。
2. 伝えたい思いを大切にされた活動	・英語で話す必然性をもった単元構成を開発し、いきいきとコミュニケーションを図る児童の姿を見取ることができた。
3. 読み書きの指導法の検討	・教育課程の工夫をもとに、短時間学習(チャレンジタイム)を活用して「読み」の機会を増やし、英語の文字や文に慣れ親しませることができた。
4. 高学年に効果的につなげるための中学年における外国語活動	・中学年における外国語活動への意欲を高めると共に、もっと英語が話せるようになりたいという動機づけも図ることができた。

年間ALT2人体制で各学級の指導にとりくみ、担任中心のレッスンプランの検討、教材教具の準備、指導者間での振り返りなどを積み重ねていくことで、外国語の授業が1教科・領域として教員児童両者に足跡を残すことができたとりくみとなった。

課題としては、個々の児童の英語に対する自信や学習した英語表現の理解・定着が低い児童が見られた点である。繰り返し学習した表現でも1人でスピーチする場面で萎縮してしまったり、次時まで前時の内容を忘れてしまったりすることがあった。ターゲットとなっている表現を、知識や技能として確実に抑えられるような授業改善が更に必要であると言える。

(2) 2017年度の研究

これまでの積み重ねを土台として、今年度は新たな研究主題「対話する喜びを感じる外国語科・外国語活動～学年に応じた言語能力に着目して～」を掲げて研究にとりくむこととした。

①研究主題「対話する喜びを感じる外国語活動」について

2017年3月に新たな学習指導要領が告示され、外国語活動・外国語科指導要領解説が同年7月に公表された。中学年からの外国語活動実施や高学年の教科化と指導時間数の増加など、数多くの点で変革を読み取ることができる。その中に示されている「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する」という大きな目標について、本校では英語をつかってコミュニケーションを取りたい、自国他国の人々と進んで関わりたいとする児童をいかに育成していくかという点に焦点を当てる。そのためには、学習した英語を使って他者と関わり、児童なりの喜びを感じている姿をめざすべきではないか。それは、友だちやALT、担任らと英語を使ってやり取りすることに前向きな姿勢でとりくんでいる姿であり、より多くの時間、多くの機会に話をしたいと願う児童の思いである。つまり、児童が英語を使って他者とコミュニケーションをとりたいと願う思い(Willingness to Communicate:以下WTC)を高めることにある。このWTCについて、MacIntyre、Clement、Dornyei(1998)らが構築した、「コミュニケーションしよ

うとする意欲を左右する要因」を概観すると、第二言語に関する自信やコミュニケーション能力が第二言語使用に辿り着く上位階層のための土台となっていることが分かる。個々の性格や社会的状況も踏まえながらも、第二言語使用のための知識や技能を高めていくことで WTC の向上につながると言える。

②副題「～学年に応じた言語能力に着目して～」について

指導要領等でねらいとされている「コミュニケーションを図る資質・能力」であるが、コミュニケーション能力と一言でいっても、文法的能力・談話能力・社会的言語能力・方略的能力など、様々な視点でとらえることができる(Canale and Swain, 1980)。小学校の授業において、これらすべての視点で指導し評価していくことは現段階では困難であろう。しかし、英語の語彙や文、形式などの文法的能力、そして、うなずきや返答、ジェスチャーなどの方略的能力はその中でも実現可能であると考え。それら2つのうち、研究主題に迫るためにはまず、“英語を知る” “英語が分かる” “英語が言える” ようにならなくてはならないと考えた。成人を扱った「英語を話したい、学びたい」といった動機づけに関する先行研究からも、英語力や到達度と関係性が深いことがわかっている(L.Gow, D.Kember and R.Chow, 1991)。よって本研究では、各学年に応じた言語材料を、適切な場面設定で、かつ、関心を高める工夫を取り入れた授業展開を通して身につけさせていくことをめざす。それによって、児童が対話する喜びを感じ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿に近づきようとりくんでいきたい。

③研修へのとりくみ

研究主題・副題の具現化に向けて、外国語指導の体制を整える必要がある。昨年度までを引き継ぎながら、本校では以下の点に力を入れてとりくんでいる。

1. 教材開発

- ・各学年に応じた単元や言語材料、活動内容などを王子台小レッスンプランとして蓄積する。
- ・新指導要領に則した年間指導計画例や新教材 *We can!* (高学年向け) 及び *Let's try!* (中学年向け) を参考に、段階を踏んだ指導計画を作成する。
- ・低学年についても、中学年の外国語活動につながるよう、絵本教材などを中心にスムーズな英語表現への出会いと表現の場を工夫していく。

2. 研究授業

- ・年間3回の授業研究日を設定し、低中高学年ブロックでの指導案検討を行う。
- ・指導案の内容を精選し、単元の価値、本時のねらいと手立てを明確にして、児童らが主体的に学ぶ姿をめざす。

3. 教科化及び70単位時間指導への準備

- ・月曜日～木曜日の短時間学習(午後の0.5時間モジュール)を活用して、話すことや聴くことに合わせて、読むことや書くことの指導にとりくんでいく。

2. 研究目的

- 学年や単元に応じた英語表現を身につけることで、対話に喜びを感じ、コミュニケーションの意欲を高めることができたか。
- 授業のねらいを明確に定め効果的に手立てを講じることで、児童が英語表現を理解し、慣れ親しませることができたか。

3. 研究方法

2017年7月に行われた3つの研究授業（1年生・3年1組・6年2組）に関わる単元全時間について、実践を追いながら検証・考察を行う。

○WTC、動機づけ、自信等の情意面について単元前後に質問紙調査を行い、変化について分析する。質問紙は、物井尚子(2015)『日本人児童のWTCモデルの構築-質問紙調査からみえてくるもの-』日本児童英語教育学会(JASTEC)研究紀要第34号、1-20.を参考に作成。

○授業で学習した言語事項の理解度をプレ&ポストテスト（紙面・インタビュー等）を使って測定し分析する。

○学級全体及び抽出児童を取り上げながら、児童が各授業で学ぶ様子を見取り、2つの視点（情意面・技能面）で各手立てについて検証する。

○3つの実践を通して、情意面と技能面の2項目を分析する。

<分析1>	外国語科・外国語活動の授業を通して、様々な観点でのコミュニケーション意欲が高まっていったか。
<分析2>	外国語科・外国語活動の授業を通して、ターゲットの英語表現に慣れ親しみ、自信をもって聴き話すことができたか。

○情意面と技能面の関係性について相関分析をもとに考察する。

4. 研究の実際

(1) 1年生の実践について

①単元名 A Teddy Bear ～クマさんをもとにもどそう～

②単元の目標

- ・体の部位を表す言葉について日本語と英語の異同に気づいたり、I want....の意味及び使い方を理解したりしている（知識・技能）
- ・ぬいぐるみの必要な体の部位を考えて、英語で伝えることができる（思考・判断・表現）
- ・体の部位を表す英語を進んで発話している（学びに向かう力）

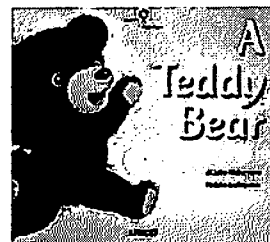
③児童の実態

児童は入学後、6月から開始した英語学習において、元気にALTの発音を復唱したり、踊りながら歌ったりして、楽しく活動することができている。児童の外国語活動に対する意欲や英語学習についての調査結果（添付資料 調査結果①）質問1、3から、外国語活動の時間を楽しみにしていることや、授業中はHRTやALTの英語を注意深く聴いたり応答したりしようとしていることがわかる。質問2では、1年生の授業ということで質問場数が少ないことが考えられる。また、質問4では、児童が家で話題にあまり挙げないことで家の人との会話が少ないと考えられる。授業での発見を生み出していくと共に、印象に残る授業づくりが必要である。

また、実践単元で学習する表現をインタビュー形式で調査した（添付資料 調査結果②）。1年生という実態から、体の部位について絵を見て答えるSpeakingと、聴いて選ぶListening形式の2種類の問題である。正答率は表の通りである。（全児童のうち6人が学校外で英語を学んでいる。）この調査から、今回扱う言語材料は外来語になっていて日常生活でも耳にすることがあるため、Listening形式ではある程度回答することができていることがわかる。しかし、実際に発話するほどの慣れ保護者しみはされていないようで、半分かそれ以下の正答率となっていることがわかる。本実践を通して音声と意味を一致させ、進んで発音できるようにしていきたいと考えた。

④単元について

顔や体の部位を表す英語に親しませたいと考える。そこで、ゴミ捨て場にばらばらになった状態で捨てられていたクマのぬいぐるみを、元のかわいい姿に戻していくと



いうストーリーの絵本「A Teddy Bear」を活用した。グループの友だちと相談をしながら、クマを元に戻すために、I want...と伝える活動にとりくむ。

⑤文法項目について

本単元では、体の部位を表す単語とI want...で欲しいものを伝える表現を扱う。事前調査の通り、低い正答率の中でも、eye や ear、 nose といった単語は耳にしている反面、arm や leg などは1年生の段階では、聞き覚えのないものとして認識されている。低学年では特に文字を媒介とはしないため、音声と意味がしっかりと一致する学習に心がける必要がある。また、I want...は物を手に入れる仕草と一致しやすく、活動の中で音声の塊（流れ）として、慣れ親しませていきたい項目である。

⑥本実践における留意点（視点）

対話する喜びを感じることができるようにするためには、学習する英語を理解し、話せたという自信をもてることが重要と考える（技能面）。さらに、学習を通して前向きに英語を話す姿が生み出されていくことで研究主題に近づくことと考へ、以下2つの視点を設定した。

視点1	楽しんで外国語活動にとりくんでいるか
視点2	取り扱う新出語彙や文法項目について理解することができたか 新出：体の部位 I want ...

※これらの視点は、後の3年生・6年生の実践についても同様に設定していく。

⑦指導の実際

【第1時 絵本のストーリーに出会う】

手立て1 映像と読み聞かせ、大型クマの操作により、A Teddy Bear（絵本）のストーリーに出会う

映像を観ながら読み聞かせをした。児童は、実際にゴミ箱の中からクマの体の部位が出てくる様子を興味深く見て、さらに各部位の英語表現に出会うことができた。

【第2時 体の部位を表す英語に慣れ親しみ、聞いて分かる】

手立て2 英語での体の部位の言い方を振り返る

絵カードを見て、体の部位を伝えたり、部位を聞いて自分の身体の部位を示したりした。はじめは不安げであったが、徐々に音声と意味が一致するようになってきた。

手立て3 メモリーゲームにとりくむ

連続で発音した体の部位を覚え、ホワイトボードに絵カードを並べるゲームである。部位は回数を重ねるに従い増えていくため、グループ内で教えてよいこととした。

繰り返して行うことで、グループ内での教え合いができるようになり、不安げだった児童も少しずつ自信をもつことができた。このゲームでさらに音声と意味の一致をめざした。

【第3時 むいぐるみの体を元に戻すために必要な英語を伝える】

手立て4 One Little Finger の歌を歌いながら、体の部位を指し示す

初めて聴く歌だが、テンポがよく繰り返して歌うので、口ずさんでいるうちに歌うことができるようになった。歌の最後に体の部位を指し示すので、音声と意味の一致を深めることにつながった。

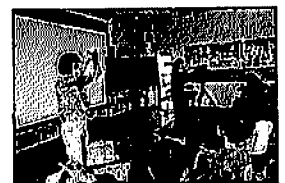
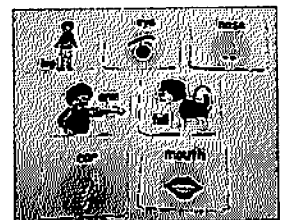
手立て5 「クマさんをもともどそう」にとりくむ

担任とALTのデモンストレーションを見て、体の部位が欲しいことを伝える表現に気づく。グループに分かれて、クマの体を元に戻す。自分の欲しい部位を I want...と伝えることができると、そのパーツを手に入れることができる。グループ内での教え合いは、初めのうちは控えめであったが、徐々に協力して行うようになっていった。

⑧検証

<視点1について>

単元を通して、抽出児を含め、ほとんどの児童が積極的に授業に参加したり、復唱したりすることができた。体の部位を I want...の表現とともに伝える場面でも、HRT や



ALT の支援を受けながら、生き生きと発話することができていた。1年生の実態にも適当な単元内容と構成であったと思われる。

<視点2について>

今回の言語材料は体の部位と〇〇が欲しいという英語表現であった。具体的な名詞であり、3回の授業を通して繰り返し慣れ親しむことができたため、定着も高くなった。事後の定着調査は、添付資料 調査結果③の通りである。また、事前事後の言語材料に関する調査を t 検定にて比較すると有意に差が見られた (Listening Test: $t(38)=-9.27$, $p=0.000$, Speaking Test: $t(38)=-12.895$, $p=0.000$)。しかし、数値を比較すると、部位によって定着の度合いに差が見られる。顔に関わる名称については高い定着が見られているものの、腕や脚、尾などについては十分とはいえない。1年生ということもあり、具体物と名称を一致させるための時間が3回の授業では不足していたと考える。また、児童らが協力してとりくむ活動が多く、個人差が見られたことも調査結果からわかった。学び合いの活動と同様に、個々が試行錯誤しながら理解を確実にしたり振り返られたりする時間を確保していく必要があった。

(2) 3年生の実践について

①単元名 I Like Apples ～好きなものを伝えよう～ (Hi, friends! 1: Lesson 4)

②単元の目標

- ・身のまわりのものや苦手なものの尋ね方や答え方を理解している (知識・技能)
- ・好きなものや苦手なものの尋ね方、答え方に気づき、やりとりをしている (思考・判断・表現)
- ・進んで友だちと好きなものや苦手なものを聞き合おうとする (学びに向かう力)

③児童の実態

児童の外国語活動に対する意欲の調査結果 (添付資料 調査結果④) から、外国語活動や英語の学習に対する意識が高く、主体的に参加している様子が伺える。

また、既習表現及びこれから学習する表現をインタビューでの形式で調査した英語力の事前調査 (添付資料 調査結果⑤) では、前単元までの学習内容について①と②のあいさつ表現の正答率は7割を超えていたが、③の自分の気分や様子を表す表現については半数近くの児童が答えることができず、定着は低いことがわかった。毎時間、短時間ではあるが繰り返し練習することが必要である。さらに未習の「〇〇が好きです」という表現については、低学年までは単語レベルの学習が多く、自分の意志を伝え合う場面が少なかったことから、実際に発話するまではいかない児童が多くなったと思われる。本単元を通して、自然に表現できるよう指導していきたい。

④単元について

様々なカテゴリーのものの名前を英語で表現したり、好きなものや苦手なものを話したり聞いたりする活動を通して、積極的に友だちや教員とコミュニケーションを図ろうとする態度を育て、お互いのことを理解し合うことをねらいとしている。

⑤文法項目について

これまでの単元では、自分の気持ちや好みを発信するのみの言語事項が多く、How are you?以外で相手に尋ねる場面ややり取りは少なかった。自分の主張だけでなく、相手の気持ちや好みを伺える Do you like...? やその答えである Yes, I do./No, I don't.の表現を取り入れることで、インタラクションの場面が広がると考える。また、今まで I like ... と使っていた表現と疑問文の違いや、Yes や No だけでやり取りしていたものと比較して、文構造の変化や否定の際に連動した答え方など、様々な英語の面白さに気づかせたい項目となっている。文字を提示しながらも、音声中心に概観的に掴ませていくことで、理解させていきたい内容である。

⑥本実践における留意点 (視点)

視点1	楽しんで外国語活動にとりくんでいるか
視点2	既習・新出の文法項目について理解することができたか
	新出: Do you like ... ? Yes, I do. No, I don't. 既習: Nice to meet you. What's your name? How are you?

⑦指導の実際

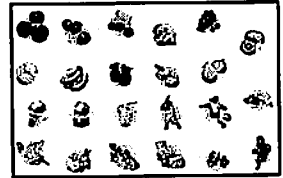
【第1時 食べ物や動物・スポーツを表す英語を知る】

手立て1 Communication and Reactionにとりくむ

既習事項の How are you?, I'm ... と Nice to meet you. Nice to meet you, too. と What's your name?, I'm ... の3種類の英語の会話を、自由に歩き回りながら男女二人ずつ会話するとりくみを毎時間行った。誰とも分け隔てなく会話をする事と、大きな声で相手の目を見ながらとりくむことを約束に意欲的に取り組むことができた。

手立て2 ジェスチャー・チャンツにとりくむ

導入として、児童が日常生活の中で聞いたことがある言葉や前単元までに取り扱った言葉を中心に、食べ物や動物、スポーツの単語を取り上げていく。ALT の発音を聞きながら学級全体で繰り返し単語の発音を練習した。特にスポーツについては、プレーしている時の動作を同時に示しながら行うことで、児童がいきいきと発音したり動きを真似たりする姿が見られた。



【第2時 好きなものや苦手なものの伝え方になれる】

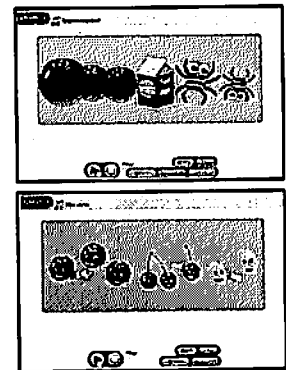
手立て3 チャンツにのせて、好きなものや苦手なものの言い方や尋ね方を知り、繰り返し声に出す

Hi, friends! デジタル教材の画面をプロジェクターで映し出し、チャンツに合わせて apple, cherry, lemon を目的語として使い、I like ... Do you like ... ? の言い方を知り、繰り返し声に出して練習をした。

チャンツのリズムに合わせる楽しさで、児童は大変意欲的にとりくみ、大きな声で発音しながら練習をする姿が見られた。

～Key Word Game～

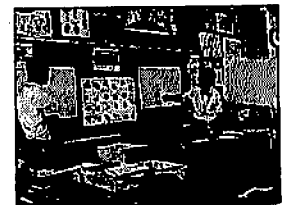
第1時で学習した食べ物や動物・スポーツのカードを黒板に貼り、キーワードになるカードを1枚決める。児童は隣どうしでペアを組み二人の机の真ん中に消しゴムを置き、Put your hands on your head. の合図で両手を頭の上に組み、ALT が発音するカードがキーワードのカードになったら消しゴムを取るゲームを楽しんだ。



【第3～4時 好きかどうかを尋ね合う】

手立て4 Guessing and Ranking Gameにとりくむ

友だちの好きなことや苦手なことを予想させた上でインタビューにとりくませた。担任が学級の「好きなものランキング」を調査・用意しておき、児童各自が予想したランキングベスト3についてインタビューを行い、結果からランキングベスト1を予想させたりすることで、話す相手に興味をもてるようになると思った。これらの活動を通して、児童は好きなことや苦手なことについて尋ねたり、答えたりする活動への必然性を感じるとともに、聞き合う活動に進んでとりくむことができた。



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
りんご										
いちご										
バナナ										
りんご										
いちご										
バナナ										

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
りんご										
いちご										
バナナ										
りんご										
いちご										
バナナ										

⑧検証

<視点1について>

文科省の Hi, friends! に準拠したデジタル教材を活用したり、ウォームアップからコミュニケーション活動を取り入れたりすることで、和やかな雰囲気での授業を展開することができた。発話の際には相手に伝わるようにはっきりと発音する児童が多く、楽しみながら自主的な活動が行えていたと考える。

<視点2について>

扱った言語材料 I like ... や I don't like ... と結びつきの強いメインの活動を取り入れたことで、活動目的と文の意味が合致し、正しく認識しながらやり取りができていた。また、ランキングの発表の際も、英語で終始進めていくことで、活動の振り返りの意味ももっていたのではと考える。新出事項の事後調査は添付資料 調査結果⑥の通りである。また、事前事後の既習・新出の言語材料に関する調査を t 検定にて比較すると有意に差が見られた ($t(23) = -13.38, p = .000$)。

(3) 6年生の実践について

①単元名 What Can You Do?～王子台スペシャリティーコンテストに出場しよう～

②単元の目標

- ・ can や what を使った英文の意味や言葉、人、それぞれに違いがあることを知る (知識・技能)
- ・ 「できる」「できない」という表現をつかって、自分や相手の得意なことを伝え合う (思考・判断・表現)
- ・ 「できること・できないこと」を積極的に友だちに尋ねたり、答えたりしようとする (学びに向かう力)

③児童の実態

児童の外国語活動に対する意欲の調査 (添付資料 調査結果⑦) から、外国語活動や英語の学習を楽しみにしている様子や、積極的に授業に参加しようとする心情が伺える。しかし、家庭ではあまり話題されていないことから、学習内容の理解や学習したことを伝えたいと思うまでには至らないと考えられる。楽しく、かつ、学習の積み重ねが実感できる授業の工夫が必要である。

次に、これから学習する表現をインタビュー及び設問シート形式で調査した (添付資料 調査結果⑧)。日頃耳にする外来語が使われているものについては正答率が高い。しかし、聴くテストでは I can ... / I can't ... の聞き分けができてるものの、それを実際に自分で使うとなるとほとんどの児童ができていない。高学年ということで、文字と意味を一致させながら4つの技能を高められるように工夫して指導する必要がある。

④単元について

本単元では、最終的なタスクを「学年合同レク大会に向けたオーディション場面」として設定した。オーディション合格を目指して、自分ができることをアピールするために「can/can't」や「Can you...?」「What...?」等の言語材料を段階的に理解させていくものである。

⑤文法項目について

今回扱うのは、can/can't を使った英文である。ALT との演示の中で can/can't の意味に気づかせた上で、繰り返しリピートさせたり、聞き分けゲームなどに取り組んだりして慣れ親しませた。意味を理解した上で、I can... I can't... のフレーズに慣れ親しませたり、Can you...? Yes, I can/No, I can't. の会話を繰り返したりする。また、何ができるか聞き出す場合、疑問詞 What を使うことを学習の中で身につけさせていきたい。

⑥本実践における留意点 (視点)

視点1	楽しんで外国語の授業にとりくんでいるか
視点2	取り扱う文法項目について理解することができたか 新出: I can ... I can't ... Can you ...? What can you do?

⑦指導の実際と手立ての検証

【第1時 I do の英語の言い方を知る。】

手立て1 play、swim、runなどの一般動詞の絵カードとチャンツを併用してとりくむ

絵カードを見ながら、ALT の発音を聞き、リピートさせていった。また、慣れてきたところでジェスチャーを加えて取り組ませたことで、動作と結びつけながら一般動詞に慣れ親しませることができた。

【第2時 I can ... / I can't ... を使って、できることやできないことを伝え合う。】

手立て2 ALTとのデモンストレーションを見る

会話の中で、未習内容 can/can't が出てきたことに気づき、学習の見通しをもてた。デモンストレーションの中でALT や HRT の表情やジェスチャーから英語表現の意味を読み取ることができた。

手立て3 マッチングゲームにとりくむ

カードを数枚並べて相手と一致できるか選ぶゲームである。自分ができることやできないことがバラバラなので、一致したときの喜びや違ったときの面白さを感じながら I can ... I can't ... の表現に慣れ保護者しむことができた。

【第3時 Can you ...? を使って、質問したり、答えたりする。】

手立て4 インタビューゲームにとりくむ

できることとできないことを考えさせた上で、インタビューにとりくませた。最初は、ペアで聞き合う形を取り、

途中から自由に歩いて出会った人と聞き合う活動に変えた。その結果、人が変わると聞くことも変わり、進んで伝え合う様子が見られた。

【第4時 What can you do?を使って、友だちのできることを知る。】

手立て5 オーディションの様子を切り口にした演示動画を視聴する

動画を見ることで、未習事項である What can you do?が今回の新しい学習内容であることが理解できたようであった。また、What can you do? と聞かれ、I can....と答える様子を目を向けさせていき、この表現が相手に何ができるか尋ねる意味であるということを理解させることができた。



手立て6 発表材料を用意する

自分が一番できることを絵に描いたり、実際の道具を使ったりすることで、相手によく伝わっていた。伝えることが苦手な児童にとって、絵や実際の道具を使って伝えることは安心感があって自信をもって活動できたようである。



⑧検証

<視点1について>

児童に言語材料や文構造を繰り返しリピートさせて言うことに慣れ親しませたり、ジェスチャーを交えて単語の意味を感じさせたりすることで、「できない」「わからない」という苦手意識を感じさせずにとりくませることができたと考えられる。また、各授業で様々な場面設定を行ったことで、児童は言語の意味や文構造をつかみやすかったと考えられる。

<視点2について>

ALTが話す様子や発音をよく聞き、理解をしていくことができた。canが初めて出てきた第2、3時では、絵カードにcan=○、can't=×の表記をして取り組ませた結果、肯定的な意味と否定的な意味であることを即座に理解することができ、ジェスチャーを交えることで、より言語の意味や文構造を理解することができていたと考えられる。What 疑問文は、第4時に動画視聴をし、リピートさせていくことで抵抗感なくスムーズに活動させることができたため、イメージをもちやすく効果が高かったと考えられる。しかし、実際のアクティビティを行う時には、第4時に用意した発表材料に頼りすぎてしまい、話すときに大切なアイコンタクトができていない児童が多く見受けられ、相手に「しっかり伝える」ということに課題が残ることとなった。事後に言語材料についての定着調査(添付資料 調査結果⑨)を行い、事前と比較したところ、どの領域についても有意に差が見られ、授業を通して言語材料に概ね慣れ親しむことができたと考えられる (Listening Test: $t(26)=-7.98$, $p=.000$, Speaking Test: $t(26)=-4.61$, $p=.000$, Reading Test: $t(26)=-5.90$, $p=.000$, Writing Test: $t(26)=-5.97$, $p=.000$, Total: $t(26)=-11.23$, $p=.000$)。しかし、高学年ということで読む・書く活動も取り入れているが、その点での定着は低いようである。活動の流れを乱さないような「読む・書く」時間を確保し、さらに定着を促せるようにする工夫が必要である。

5. 分析・考察

これまで3つの実践について、指導内容や児童の学びの様子から各単元の目標に向かってめざす姿になっていたかを検証してきた。さらに、研究主題「対話する喜びを感じる外国語・外国語活動」について分析をすすめる。<分析1「外国語科・外国語活動の授業を通して、様々な観点でのコミュニケーション意欲が高まっていったか」について>

外国語活動の学習や、コミュニケーションの意欲に関する研究視点である。物井尚子(2015)『日本人児童のWTCモデルの構築—質問紙調査からみえてくるもの—』日本児童英語教育学会(JASTEC)研究紀要第34号、1-20を参考に、情意面についての質問紙を作成した。「学習した英語表現(L2コミュニケーション能力)についての認知」に関わる質問項目数は学年によって異なるが、おおよそ25程度の質問項目について集計した。(1~4の尺度で調査。4が最も高い返答) 質問項目は以下6つのカテゴリーに属するものである。

- (1) 国際的志向性：海外の人々や情報についての関心や国際的な仕事への意欲
- (2) 英語学習・外国語活動への意欲

- (3) 外向性：興味や関心が外界に向けられているか、社会的であるか
- (4) 不安 (L2 コミュニケーション)：英語学習の際の消極性
- (5) WTC (Willingness to Communicate)：英語で他者と進んで関わろうとする意欲
- (6) 学習した英語表現 (L2 コミュニケーション能力) についての認知：各実践で扱われた英語表現を使うことについての認知

この調査を単元学習の事前事後に実施した結果は、資料 (分析結果 <分析1「外国語科・外国語活動の授業を通して、様々な観点でのコミュニケーション意欲が高まっていったか」について>⑩) の通りである。

どの学年においても、単元前後で少しずつ数値が向上している。各質問項目が4点～1点の回答形式であることから、カテゴリー(1)～(5)については数値的に僅かな伸びではあるが、各実践を通して児童の意識が高まってきたことがわかる。カテゴリー(6)については、3年生の数値が大きく変化している。授業中の様子からも、様々な活動を経ていくうちに児童の表情が変化し、堂々と発話しているやりとりが聞かれた。しかし、1年生、6年生については、直前で学習を終了したのにも関わらずあまり高まりが見られない。1年生としては、英語の学習でやっていたことと質問の合致が低かったのでは、と推測する。また、6年生は、学習したことをきちんと自信をもって表現できるかという点で、高い尺度の点数に返答できなかったと考えられる。

<分析2「外国語科・外国語活動の授業を通して、ターゲットの英語表現に慣れ親しみ、自信をもって聴き話すことができたか」について>

前述の各実践の検証の通り、単元で扱った英語表現の技能面については、事前事後で明確な差が見られ、児童がターゲットの英語表現に十分に慣れ親しむことができたことがわかった。このような結果に影響したと考えられる各実践の手立てをまとめると、以下ようになった。

①単元導入の工夫 (言語材料との出会い)

絵本や映像資料など、学年に応じた素材を活用しながら、各単元で学習する言語材料に場面の理解をさせながらふれさせていくことで、学習の見通しや音声・文表現と意味や機能との一致に気づかせていくことができた。単元前半の時点でこれらの気づきが生まれていない児童についても、繰り返し提示していくことで理解できたケースも見られた。

②言語材料への慣れ親しみ

1年生のメモリーゲームや3年生、6年生のチャンツなど、繰り返し聴いたり声に出したりする活動を取り入れることで、児童の動きや発音が向上し、理解を深めていく様子が見られた。注意深く聴く必然性をもたせることや、体も動かして楽しみながら繰り返し声に出すことのできる活動を取り入れていくことで、ターゲットの英語表現に深く親しむことができていった。さらに、周囲の友だちと教え合う場面も作り出していくことで、児童が抵抗なく学習することもできた。また、3学年以上で適宜とりくんでいる Communication and Reaction の活動では、学習した表現を繰り返し使いながら互いの情報を交換し合うことができた。普段一緒にいる友だちであるが、好みについて再確認することもあり、興味を示しながら進んで発音することができていた。このような既習の表現であっても、意欲的に取り組みたり発話に自信をもたせたりする事のできる活動も効果的であることがわかった。しかし、さらに個に焦点を当てていくと、どの学年も慣れ親しみに差が見られる。授業内での評価の視点も含めて、個々がどれだけ気づけているか、どの程度理解できているか、しっかりと発話できているかなどを確認・評価できるような活動を取り入れていく必要があると考える。

③学習ゴールの設定

どの実践においても、単語や文など、ターゲットの英語表現をただ使えるようになるだけでなく、理解し発話できるようにすることで、それらを使って目的をやり遂げることのできる単元構成を取り入れた。英語の知識や技能が少しずつ身についた達成感を得ることと同時に、相手の英語がわかり、英語で伝えたことで課題を解決できた満足感を感じさせ、もっと英語を学習していきたいといった意欲を高めることができたと思われる (視点1の調査も踏まえて)。

<分析1、2を通して>

技能面の定着度調査と情意面の質問紙調査の結果をもとに、相関分析を行った。事前調査及び事後調査それぞれ

について相関が見られたのは資料（分析結果 <分析1、2を通して> ⑪～⑬）の通りである。

単元前と後の調査で、相関が高まっているものが多く見られた。上記の表から幾つかの点が明らかになった。一事前事後で「国際的志向性」と「外国語活動への意欲」がどの学年も相関が高まり、特に3年生においては係数が0.7以上という高い相関を示している。

一技能面での調査でどの学年も有意に向上していた学習した英語表現であるが、その点に関する認知と「WTC」の相関が、3学年とも強まっている。

→1年生、6年生では「外国語活動への意欲」と「WTC」が強い相関を示すようになった。

→6年生では、多くのカテゴリ間で相関が高まっている。

授業を通して英語に慣れ保護者しみ、英語のもつ面白さを感じて少しずつ英語で話すことへの自信をつけつつある児童である。それらを背景とした児童らの情意面として、世界に目を向ける気持ちや、英語で他者と進んで関わろうとする意識が高まり、かつ相互の関連が高まっていくのは納得できる結果である。特に興味深いのは、英語で話せる事柄が増えたと認識することと、WTC（英語で他者と進んで関わろうとする意欲）の結びつきが強くなっている点である。本研究を通してとりくんできた、言語能力を高める手立てにより、知識、技能、表現する力が向上し、自分で使えると認識すると同時に、それらを使って他者と関わろうとする意欲が高まったと考えられる。つまり、学年に応じた言語材料を対象にして、効果的に指導していくことで、英語学習への興味や自信を高めるとともに、英語で他者と進んで対話したい、海外の人々と関わりたいという外国語科・外国語活動の本来のねらいに近づいていけるのではと考える。今後の授業実践につなげて行くためにも、「英語が話せる・英語が話せた」と実感できる児童の姿を追い求めていくことを念頭におく必要があると言えるのではないかと。

6. 成果 (○) と課題 (●)

○学年に応じた言語材料を精選し、表現に気づく工夫や深く慣れ親しむ手立てを講じていくことで、ターゲットの英語表現を身につけ、生き生きとやりとりさせることができた。

○授業を通して英語表現を身につけていくことで、児童の学習した英語表現についての認知が高まり、さらには様々な視点でのコミュニケーションの意欲につながっていくことがわかった。

●当初の課題であった英語表現の定着については、未だに個人差が大きかった点は否めない。指導時間数や取り入れられる活動の質、難易度など、さらに研究を深めていきたい。

●コミュニケーション意欲に関する数項目について、それぞれを高めるための指導方法の検討や、今回該当していなかった項目との関連をさらに高めていけるような授業改善を今後も推進していく必要がある。

7. 今後の研究方針について（平成30年度研究）

前述の研究成果・課題を受け、今後はどの児童も英語表現の慣れ親しみをさらに深めることや、外国語使用に関する意欲を多面的に高めていくことが必要であるといえる。そこで、コミュニケーション活動の中で、英語表現そのものだけではなく、その表現を使ったやりとり（Interaction）の場面に着目し、指導の工夫を行っていききたい。相手の英語を聴き、それに対して自分の思いをスムーズに伝え、対話する喜びを感じられるようにしていきたいと考え、引き続き研究主題を「対話する喜びを感じる外国語科・外国語活動」、副題を～英語の使用場面に焦点をおいて～とした。具体的には以下のような視点で研究を進めていく。

- ・低学年では、英語表現の意味と音声を一致させ、それらを使って積極的にやりとりできる姿をめざす。
- ・中学年では、定型の文章だけでなく、Chunk Learning（文の一部を入れ替えて表現させる）のような、状況や自分の考えをできるだけ詳しく伝えるやりとりができるようにする。
- ・高学年では、相手の言うことを理解しその話にうなずきや反応を示し、話題を膨らませながら受け答えしていく姿をめざす。

授業内のやりとりの場面で生き生きと英語を使った対話に取り組む児童を育てるために、気づきや理解、積極性等を促す手立てを講じた授業を展開していきたい。同時に、読む・書く活動の取り入れ方や評価場面・評価方法についても2020年度の新指導要領完全実施に向けて検討を進めていきたい。

資料

1. 研究の実際 調査結果
2. 研究の実際 分析結果
3. 実践事例 1～3
4. 公開研究会における展開授業
5. 情意面調査 サンプル (SQS シート)

1. 研究の実際 調査結果

(1年生)

①外国語活動に対する意識調査 (1年生・38名)
(1~4の尺度で調査。4が最も高い返答)

	質問内容	平均
1	英語を学ぶことはワクワクします	3.6
2	もし、英語の時間にわからないことがあったら先生に質問します	2.8
3	英語の時間には先生の問いかけにいつも答えます	3.3
4	家の人には私に英語の時間に何をしたら聞いてきます	2.2

②学習表現の事前インタビュー調査

(1年生・38名)

	Listening	Speaking
eye	23%	10%
mouth	25%	12%
ear	23%	12%
nose	33%	12%
arm	12%	2%
leg	15%	2%
tail	5%	0%

③事前事後の言語材料に関する調査

(1年生・38名)

	Listening	Speaking
eye	82%	71%
mouth	72%	61%
ear	82%	82%
nose	79%	74%
arm	71%	46%
leg	59%	46%
tail	66%	51%

(3年生)

④外国語活動に対する意識調査 (3年生・23名)
(1~4の尺度で調査。4が最も高い返答)

	質問内容	平均
1	英語を学ぶことはワクワクします	3.8
2	もし、英語の時間にわからないことがあったら先生に質問します	2.8
3	英語の時間には先生の問いかけにいつも答えます	3.3
4	家の人には私に英語の時間に何をしたら聞いてきます	2.2

⑤学習表現の事前インタビュー調査

(3年生・23名)

以下の英語での質問に答えることができる	割合
①Nice to meet you.(既習)	83%
②What's your name?(既習)	70%
③How are you?(既習)	54%
④Do you like bananas?	4%
「私はリンゴが好きです」を英語で言うことができる	4%
「私はレモンが苦手です」を英語で言うことができる	2%

⑥事後の新出材料に関する事後調査

(3年生・23名)

	正答率
「私はリンゴが好きです」を英語で言うことができる。	75%
「私はレモンが苦手です」を英語で言うことができる。	62%

(6年生)

⑦外国語活動に対する意識調査 (6年生・23名)

(1~4の尺度で調査。4が最も高い返答)

	質問内容	平均
1	英語を学ぶことはワクワクします	3.3
2	もし、英語の時間にわからないことがあったら先生に質問します	2.8
3	英語の時間には先生の問いかけにいつも答えます	3.5
4	家の人は私に英語の時間に何をしたら聞いてきます	1.7

⑨言語材料についての事前事後定着調査比較

(数値は平均)

(6年生・23名)

	事前	事後
Listening(8)	6.85	7.96
Speaking(4)	1.37	3.37
Reading(5)	1.41	3.07
Writing(6)	0.74	2.37
Total(23)	10.3	16.7

⑧学習表現の事前インタビュー調査(6年生・23名)

質問項目	正答率
聴いて絵を選ぶことができる。	
Play soccer.	100%
Play the piano.	100%
Ride a unicycle.	88%
Swimming.	96%
I can play badminton.	92%
I can't cook.	74%
I can jump a rope.	77%
I can't play the recorder.	5%
英語で言うことができる。	
「私はサッカーができます」	14%
「私はテニスできません」	14%
「あなたはピアノが弾けますか？」	8%
「あなたは何ができますか？」	0%
単語を選んで書くことができる。	
「私は泳ぐことができる」	25%
「私はピアノを弾くことができない」	11%
「あなたはサッカーができますか？」	14%
「テニス」	3%
「バスケットボール」	7%
「走る」	11%
読むことができる。	
I ride a bicycle.	11%
Yes, I can.	51%
I can play soccer.	40%
What can you do?	37%

2. 分析結果

<分析1「外国語科・外国語活動の授業を通して、様々な観点でのコミュニケーション意欲が高まっていったか」について>⑩

	1年生		3年生		6年生	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後
(1) 国際的志向性	10.5	11.9	11.9	11.9	11.1	11.5
(2) 英語学習への意欲	11.2	11.6	11.4	12.7	11.2	11.4
(3) 外向性	9.7	10.3	9.8	10.7	8.6	9.4
(4) 不安	7.3	6.9	8.7	8.9	7.9	8.2
(5) WTC	7.8	8.1	9.2	10.0	8.1	8.4
(6) 英語表現についての認知	19.6	20.6	24.5	31.9	20.4	20.9

(値は平均値、カテゴリー(4)については、肯定的回答に変換したもの)

<分析1, 2を通して>

⑩【1年生】

相関が見られた項目(番号)と相関係数(r)及び有意確率(p) ※全て自由度(df)は34	
事前	Speaking test - (5) $r=.41, p<.001$ (6) $r=.50, p<.001$
	国際的志向性 - (2) $r=.41, p<.01$ (5) $r=.53, p<.001$ (6) $r=.67, p<.001$
	英語学習・外国語活動への意欲 - (3) $r=.40, p<.001$ (6) $r=.47, p<.001$
	外向性 - (5) $r=.45, p<.001$
	WTC - (6) $r=.57, p<.001$
事後	国際的志向性 - (2) $r=.65, p<.001$ (3) $r=.69, p<.001$ (5) $r=.73, p<.001$ (6) $r=.58, p<.001$
	英語学習・外国語活動への意欲 - (3) $r=.58, p<.001$ (6) $r=.51, p<.001$
	外向性 - (5) $r=.60, p<.001$ (6) $r=.45, p<.001$
	WTC - (6) $r=.69, p<.001$
(1) 国際的志向性 (2) 英語学習・外国語活動への意欲 (3) 外向性	
(4) 不安 (5) WTC (6) 学習した英語表現についての認知	

⑫【3年生】

相関が見られた項目(番号)と相関係数(r)及び有意確率(p) ※全て自由度(df)は22	
事前	Speaking test - (4) $r=.68, p<.001$ (6) $r=.41, p<.001$
	国際的志向性 - (4) $r=.55, p<.001$ (5) $r=.72, p<.001$ (6) $r=.44, p<.01$
	外向性 - (4) $r=.40, p<.05$
事後	Speaking test - (4) $r=.41, p<.05$ (6) $r=.41, p<.05$
	国際的志向性 - (2) $r=.72, p<.001$ (6) $r=.41, p<.05$
	WTC - (6) $r=.48, p<.01$
(1) 国際的志向性 (2) 英語学習・外国語活動への意欲 (3) 外向性	
(4) 不安 (5) WTC (6) 学習した英語表現についての認知	

⑬【6年生】

相関が見られた項目(番号)と相関係数(r)及び有意確率(p) ※全て自由度(df)は24	
事前	Test total - (4) $r=.47, p<.01$ (6) $r=.50, p<.001$
	国際的志向性 - (2) $r=.50, p<.001$ (3) $r=.53, p<.001$ (5) $r=.50, p<.001$ (6) $r=.49, p<.001$
	英語学習・外国語活動への意欲 - (3) $r=.52, p<.001$ (4) $r=.48, p<.01$ (5) $r=.64, p<.001$ (6) $r=.63, p<.001$
	外向性 - (5) $r=.44, p<.05$
	WTC - (6) $r=.50, p<.001$
事後	Test total - (4) $r=.42, p<.05$, (6) $r=.46, p<.001$
	国際的志向性 - (2) $r=.65, p<.001$ (3) $r=.54, p<.001$ (5) $r=.77, p<.001$ (6) $r=.61, p<.001$
	英語学習・外国語活動への意欲 - (3) $r=.62, p<.001$ (5) $r=.71, p<.001$ (6) $r=.72, p<.001$
	外向性 - (5) $r=.70, p<.001$ (6) $r=.51, p<.001$
	WTC - (6) $r=.74, p<.001$
(1) 国際的志向性 (2) 英語学習・外国語活動への意欲 (3) 外向性 (4) 不安 (5) WTC (6) 学習した英語表現についての認知	

※事前事後で相関(係数)が高まったもの、新たに中程度以上の相関($r>+.40$, $r<-.40$)を示したものを網掛け

3. 実践事例1

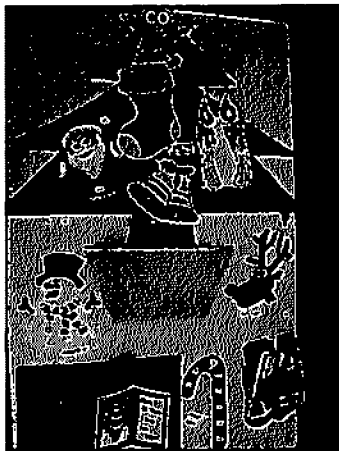
クリスマスを楽しもう

～クリスマスに関する物の英語表現を理解しながら前置詞の表現をつかむ～

①単元名 2年 Let's Enjoy Christmas

～クリスマスを楽しもう～

②単元について



本単元では、クリスマスにちなんだ物の言い方を知ったり、その単語を使って前置詞の使い分けをつかんだりする。さらに、学習したことをもとに、クリスマスツリーカード作りやプレゼント探しを行う。クリスマスは普

段から日本の文化に入り込んでいるイベントであり、児童はクリスマスに関する英単語をよく耳にしているであろう。意味をある程度つかんでいるものを使うことで、新たに出てくる前置詞への焦点が当てやすく、抵抗感をへらしながら、意識させることができると思われる。

◎実践の特徴

児童はこれまでに簡単なあいさつや自己紹介の仕方、色や数、果物や野菜、動物等について、ALTの英語を復唱したり、歌やゲームなどをしたりして楽しく学習してきている。また、学習内容に応じた絵本のストーリーに出合うことで、目と耳を使って英語に慣れ親しんできた。しかし、個々になると、声に出して発音したり、会話をしたりする場面では、はずかしさからか、小さな声になってしまったり、尻込みをしたりと消極的になりがちである。そこで、児童が夢中になれるようなゲームを用意したり、達成感を味わえるような活動を仕組んだりし、コミュニケーション能力を高めていこうとしてきた。

◎指導計画 (1 単位時間 45分 3 時間扱い)

○絵本のストーリーに出合う————— 1

○クリスマスツリーカードを作る————— 1

○クリスマスプレゼントを探す————— 1

◎指導目標

○クリスマスにちなんだ物の英語表現に慣れ親しむ (知識・技能)

○前置詞を使い分けながら、プレゼントの場所を友だちと伝え合う (思考・判断・表現)

○クリスマスに関する英語表現を進んで伝えようとしている (学びに向かう力)

◎指導の実際

【第1時 絵本の読み聞かせから前置詞の表現に出合う】

ALT による絵本「Where are the Christmas presents?」の読み

聞かせを行った後に、実物 (箱、

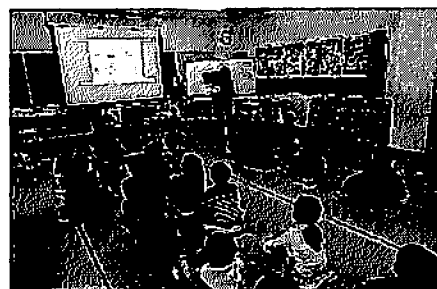


クリスマスツリー、靴下、ベル、ろうそく等) を使って ALT と HRT の会話「Where is the ... ?」「It's on(in, under, next to) the box.」の中で前置詞を意識させた。

さらに、リズムボックスで会話文を何度も声に出して練習させた。その後、4人のグループをつくり、ゲーム「どこにあるの?」に取り組んだ。ALT や HRT と「Where is the ... ?」「It's on(in, under, next to) the box.」のやりとりをしながら、グループの友だちと共に何がどこにあるか絵カードを貼った。ホワイトボードの箱の絵を協力して完成させることで、場所を表す前置詞の使い分けができるようになってきた。

手立て1: 前置詞の部分強調したり、間を置いたりして読み聞かせをする。

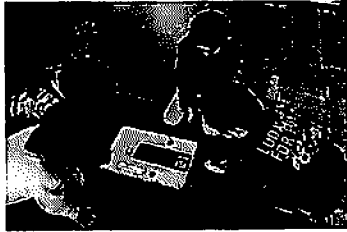
ストーリーの中に場所を表す前置詞が出てくる絵本「Where are the Christmas presents?」を読み聞かせの本に選んだ。読む際には、前置詞を強調して読む工夫をし、注意が前置詞に向けられるようにしてきた。そうすることで児童は、ストーリーを聞きながら映像とつなぎ合わせて、自然に前置詞の音の違いに気づくことができた。さらに、音の違いによって、指し示す場所も違ってくることも気づくことができた。そして、音と映像によって



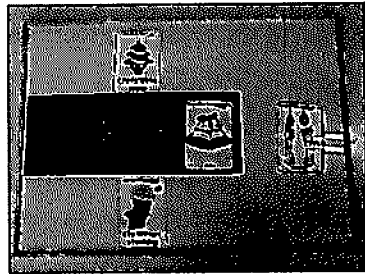
前置詞の音と意味が次第に一致できるようになった。

手立て2：ゲーム「どこにあるの？」でALTの英語から絵カードを置く場所を判断させる

「どこにあるの？」では、4人グループをつくり、ALTやHRTと会話「Where is the ...?」「It's on (in, under,

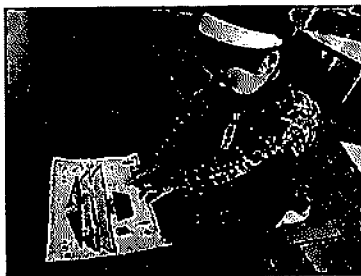


next to) the box.」のやりとりをしながら、グループの友だちと協力して、何がどこにあるかを判断し、絵カードを置いてホワイトボードの箱の絵を完成させた。活動の前の演示は、前置詞の音の違いと場所の違いがよくわかるように行った。出題の際も、音の違いを聞き分けてから作業するようにさせた。そして、ゲームの中で「Where is the ...?」「It's on (in, under,



next to) the box.」のやりとりをしながらカードを正しく選択する活動を通して、音と意味の一致がより確実なものになっていったと思われる。
【第2、3時 カード作りやプレゼント探しを通して前置詞の表現を確

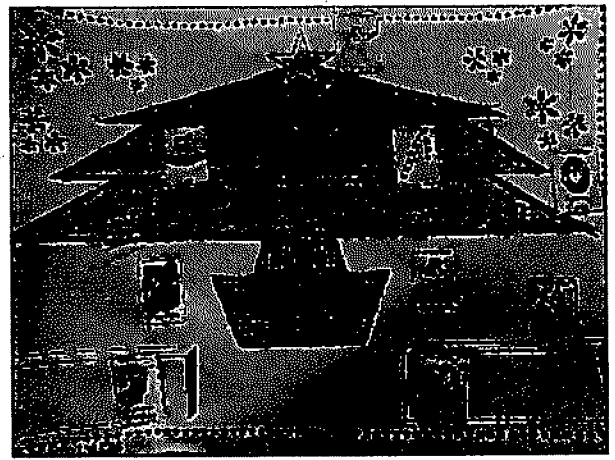
実にする】



第2時では、前置詞を使った位置関係を示す表現を復習した後、クリスマスツリーカード作りをする。ALT、HRTと会話

のやりとりをしながら、一人ひとりがカードにステッカーを貼っていき、すべての指示が終わったら答え合わせをする。

第3時では、クリスマスプレゼント探しをする。学級の児童を隠すグループと探すグループに分ける。そして、プレゼントは第2時まで学習した前置詞(on, in, under, next to)を使って隠せる場所に隠させ、探すグループは前置詞をよく聞いてプレゼントのありかを探すというゲームである。これらの活動を通して、クリスマスの雰囲気を楽しみながら、クリ



スマスにちなんだ物の言い方や前置詞の使い分けを理解し、楽しく表現することができた。

⑦成果 (○) と課題 (●)

- 児童がよく耳にしている、意味をある程度つかんでいるクリスマスのものを使うことで、新たに出てくる前置詞への焦点が当てやすく、抵抗感をへらしながら、意識させることができた
- ストーリーの中に場所を表す前置詞が出てくる絵本の読み聞かせをすることで、自然に前置詞の表現のしかたにつなげることができた
- 前置詞に出合った後に、ゲームやクリスマスツリーカード作りやプレゼント探しをすることで、楽しく活動しながら、前置詞を使った表現ができるようになった
- 前置詞は初めて学習するので、リズムボックスをつかったチャンツをする前に、ALTの後についてゆっくり発音練習する時間があるとよかった。また、リズムボックスの後に前置詞の使い分けが理解できているか確認する必要があった
- ゲーム「どこにあるの？」では、ホワイトボードを使って前置詞の使い分けをしたが、平面よりも立体にすると、より理解しやすかったと思う

3. 実践事例2

ブラックボックスゲーム

～実物教材を使った活動を通して

幅広い英語表現を身に付ける～

①単元名 3年 What's This?

～ブラックボックスゲームをしよう～

②単元について

本単元では、ブラックボックスゲームを通して「What's this?」「It's ...」のやりとりを自信をもって表現・発話できるようにしていく。今回取り組んだゲームは、視覚や触覚を活用した活動にし、楽しみながら表現を身に付けるために、果物や野菜のレプリカを使う。クイズ形式にしていくことで、英語に慣れ親しみながら、自信をもって表現できるようにしていく。

③実践の特徴

児童は、前単元までに「Do you like ...?」や「What ... do you like?」といった表現や、基本的な挨拶の表現を学習している。加えて、野菜や果物の単語もある程度理解をしている。児童にとって「これは何?」と聞く表現は、日常でもよく使われており、親しみやすいものといえる。

本単元では、「What's this?」の表現を理解するため、ブラックボックスゲームを行う。その際、果物や野菜を指し示すヒントとなる単語も合わせて指導する。ヒントは、形・色・味の三種類を使う。その中で形(circle/oval/triangle/crescent)と味(hot/sweet/bitter/sour/salty/delicious)については新出単語のため、ビートにのりながら繰り返し発音させ定着を図る。これらの単語は「It's ...」の表現も併せて使うことができ、やりとりの練習にもつなげることができる。また、積極的にALTの発音をまねする活動から、ネイティブな発話をできるようにしていく。形・色・味の単語を定着させることで語彙の種類も増え、英語を楽しく感じていけるようになると思われる。

ゲームの中で繰り返し発話し、抵抗なくやりとりを学んでいけるようにしたい。

④指導計画(1単位時間45分 4時間扱い)

- 形・色・味を表す単語を知る—————1
- What's this?/It's ...の言い方を知る—————1
- What's this?/It's ...の言い方に慣れる—————1
- ブラックボックスゲームに取り組む—————1

⑤指導目標

○「これは何ですか」の尋ね方や答え方に慣れ親しむ
(知識・技能)

○これは何かを尋ねたり、答えたりしながら、問題を出し合う(思考・判断・表現)

○友だちどうして進んで物の名前を尋ね合おうとしている(学びに向かう力)

⑥指導の実際

【第1時 Keyword game を通して形・色・味を表す単語を知る】

挨拶から始まり、Warming up の時間の中で、周囲の友だちと5つの既習表現を使い、会話をする活動に取り組みせ、英語でやり取りする雰囲気馴染ませた。

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1. How are you? | 4. Do you like ...? |
| 2. What's your name? | 5. What ... do you like? |
| 3. Nice to meet you. | |

教室を自由に歩き回り、上記の表現の中から一つ選び、友だちと会話をさせた。既習表現の定着を確認するとともに、児童が自ら会話に参加できるように促した。また、「相手は男子2人と女子1人」や「前回とは違う表現を選ぶ」というような目標を設定し、達成度の確認をすることで一人ひとりが活動に参加することができ、より効果の高いものになった。

さらに、形と味の単語に慣れ親しむため、ビートのリズムに乗ってリズム良く発音していくようにした。ALTの後に続いて発音することと、リズムカルに発音することで、自然と頭に残り、正しい発音で知ることができた。

その後、ALTやHRTがどの単語を発音したのかを自分の耳で聞いて判断し、反応するというKeyword gameを行った。フェイントを交えることで、集中しながら楽しめる活動となった。

【第2・3時:「What's this?」「It's ...」の言い方を知る】

「What's this?」「It's ...」のやりとりを定着させるため、Songの時間に「What's this?」の動画を見せ、視覚・聴覚から馴染ませるようにした。また、ブラックボックスゲームにつながる3ヒントカルタゲームを行い、表現を楽しく身に付けることができるようにした。

**【第4時：検証授業（やや消極的なA児を中心に）
ブラックボックスゲームを行う】**

導入の際、普段から行っているウォーミングアップで、ヒントとなる形・色・味の単語をリズムカルに振り返り、ゲームの準備を行った。

手立て1：ビートを使いゲームに必要な単語を身に付ける

徐々にビートが速くなるにつれて、A児は楽しみながら必死についてきている様子が見られた。活動が終わった後も隣の児童と空で唱える様子も見られ、自然に定着していると感じた。絵カードも提示することで、単語の意味も理解することができていた。

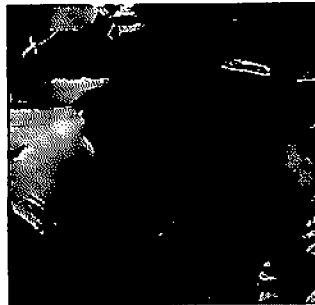
手立て2：ALT・児童とHRTのデモンストレーションを見て、流れを確認する。

言葉でルールを説明するのではなく、実際にデモンストレーションをして流れを確認させた。ALTに回答者となってもらい、目を閉じた後レプリカを触



らせた。その後全員で「What's this?」と発話させた。ALTの「Hint, please.」の合図で、形・色・味の3つのヒントを考えさせた。その際

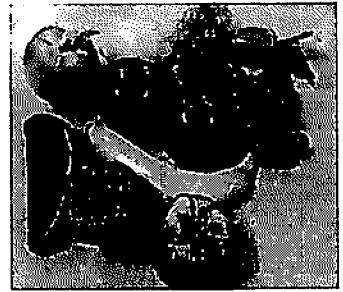
「It's」を必ず発音するよう徹底し、やりとりを理解することを忘れさせないようにした。A児は初め消極的な様子であったが、児童とのデモンストレーションの際、実物を出すと隣の児童と「早く触りたい」と笑顔で話している様子が見受けられ、実物教材によって興味関心をもつことができたようであった。



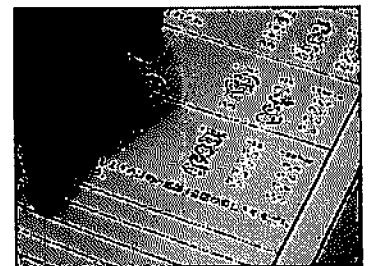
「What's this?」「It's...」のやりとりを定着させるために、ブラックボックスゲームを行った。

手立て3：具体物を使い、ブラックボックスゲームに取り組む

ALTとデモンストレーションを行った後、同じ方法でグループ活動を行った。グループ内で回答者とヒント係を決め、一回終わるごとに交代し全員が全ての役割をできるようにした。果物や野菜のレプリカを用意し、形や色をよりわかりやすくイメージできるようにした。A児はヒント係の際、グループ内で積極的に形・色・味のヒントを考え与えていた。また、グループ内の児童がヒントが出せずに困っていると、「Greenだよ」と助け舟を出す様子も見られた。また、A児が回答者の時は、大きな声で「It's Grapes.」といったように自信をもって答え、正解し喜んでいて、尋ね方と答え方だけではなく、形や味等の単語も楽しみながら理解していることが分かった。



最後にワークシートに単元の自己評価を書き、振り返りとした。A児のカードを見ると、単元を通して理解度が高まっていることが分かった。



⑦成果(○)と課題

(○)

○レプリカや実物といった具体物を用いたことで、児童の関心を引き付けることができ、やりとりをより楽しく身に付けることができた

●ゲーム形式でやり取りは学べたが、会話の中での使い方を教えることが不十分であったので方法を探っていきたい

3. 実践事例3

Youは何しに日本へ

～会話を意識したインタビュー活動を通して～

①単元名 5年

どこへ行きたいかインタビューしよう！

～Youは何しに日本へ～

②単元について

本単元では、来日した外国人にインタビューを行うテレビ番組を真似た活動を設定した。5年生の実態として、あまり知らない外国の紹介をするよりも、身近な日本のことを紹介する方が会話をする上でイメージが付きやすいと考え、この番組のやり取りを取り入れていくこととした。実際の番組を視聴しながら学習内容を明確にし、自信をもってインタビュー活動に取り組めるようにした。

◎実践の特徴

児童は、昨年度までにコミコミタイムという活動を通し、積極的に友だちに話しかけ、外国語に慣れ親しむとともにコミュニケーション能力を養ってきた。今年度は、世界の様々な挨拶、自分の好きなもの、たくさんの数の数え方等を学んできた。チャンツやゲームを通してリズムにのり、楽しみながら外国語活動に取り組むことができるが、回答に自信がもてず、消極的になってしまう児童も少なくない。そこでALTとの授業だけでなく、担任単独の授業の中で、前時の復習を行い、自信をもって会話させるようにする。また、リズムに合わせた発音練習をし、会話量を増やせるようなゲームを意図的に行わせることで発信する力をつけたいと考える。

英語表現については、Where are you from?、Where do you want to go?、Why?といったインタビュアーからの質問項目だけでなく、Do you have any advice?(その場所のその他の有名なことを知っていますか?)という、インタビューを受ける側からの質問も行い、双方向の会話を意識した活動にしていく。

◎指導計画(1単位時間45分 9時間扱い)

○インタビューの内容を知り、国名やWhere are you from?を使った質問の仕方に触れる——1

○前時の復習を行う。国名を書き写す——0.5+0.5

○Where do you want to go?の質問や、I want to go to...を使った答え方をできるようにする——1

○前時の復習を行う。I want to go to...の文を書く

0.5+0.5

○その場所に行きたい理由について尋ねたり答えたりする——1

○日本の名所、食べ物、お土産について調べ、なぜその場所に行きたいのか答えられるようにする

0.5+0.5

○Do you have any advice?を使ったインタビューを知り、返答の仕方を知る——1

○インタビュー時の会話や項目を確認する

0.5+0.5

○インタビュー活動を行う——1

◎指導目標

○国名や国内の行きたい場所について理解している(知識・技能)

○行きたい地域について理由も含めて伝え合ったり、それらを書き写したりすることができる(思考・判断・表現)

○他者に配慮しながら、行きたい国や地域について説明し、自分の考えを整理して伝え合おうとすることができる(学びに向かう力)

◎指導の実際

【第1時 映像資料から学習の見通しをもつ】

インタビュー番組を視聴させ、会話の内容に気づいたり、様々な国名や、どこから来たのかという問いと答え方を知ったりした。

【第2時 (M1・2) 第1時の復習をし、国名を書き写す】

第1時で行ったWhere are you from?を使いリズムボックスやミニゲームで繰り返し使って慣れさせた。前時で習った国名も復習し、会話で使えるように慣れ親しませた。

【第3時 自分の行きたい場所の言い方や質問の仕方を知る】

Where do you want to go?の質問や、I want to go to...を使った答え方ができるようにした。リズムに合わせてテンポよく繰り返し、耳から会話表現をひとつずつ増やしていった。また、複数のゲームを行い、楽しみながら会話表現を何度も使っていた。

【第4時 (M3・4) 復習をし表現の定着を行う】



前時で行ったゲームの他、マッチングゲームを行い、会話表現の定着を図った。また、I want to go to ... の文

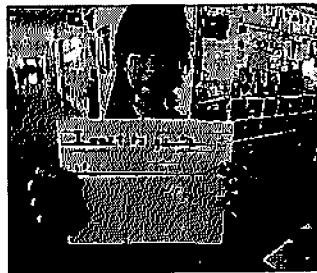
をなぞり書きした。

【第5時 なぜその場所に行きたいのかについて尋ねたり答えたりする】

ALT と HRT の会話から、Why? とそれに対する答え方、I want to see (eat・buy) ... を知り、表現に慣れ親しんだ。ラッキーカードゲームを行い、繰り返し声を出して表現の定着を図った。

【第6時 (M5・6) パンフレットを作成する】

Where do you want to go? の質問に対して答えられるように、自分が行きたい国内の名所を調べた。その際に My パンフレットを作成し、I want to go to ... や I want to see (eat, buy) ... をなぞり書きして、書く表現にもふれた。



【第7時 おすすめの聞き方を知る】

会話表現の復習を行い、インタビューされる側からの質問に対して答える項目の確認を行った。一方的な質問に対しての返答だけでなく、会話ということから、Do you have any advice? という表現を知り、I want to see (eat, buy) ... を使って答えることを知った。

【第8時 (M7・8) 役割分担をする】

インタビューでの質問や答え方を積み重ね、身につけてきた。次時のインタビュー活動に向けて、インタビューをする側の役割 (インタビュアー、カメラマン、音声) と受ける側 (tourist) の役割設定をした。

【第9時 検証授業インタビュー活動を行う】

ウォーミングアップとしてフォニックスをジェスチャーつきで行ったり、リズムボックスでテンポよく会話表現に慣れ親しんだりした。

手立て1: パターンミニゲームに取り組みさせる

インタビューを行うには、相手の言っていることがわかり、自分が伝えようとするをすぐに話せる必要がある。そのため、カードを見た瞬時に質問や答えを想起し話させるようにした。本時で使う Where are you from? Where do you want to go? の質問や、返答する機会を繰り返し与えた。その結果、インタビューでの会話を想起させることができ、実際のインタビューでの活動時にスムーズに会話することができた。

手立て2: 3人グループのローテーションでインタビュー活動をさせる

インタビュー活動は3人グループで行わせる。インタビュアー側の役割を明確にし、質問内容を確認しながらインタビュー



を成立させるようにした。1人では会話をすることに自信のない児童も、助け合いながら会話を成立させることができると考えた。また、外国人役も含めてすべての役割を交代して繰り返しながら発話機会を与えることで、会話の内容に慣れ親しみ、テンポよくやり取りができた。

○成果 ○ と課題 ●

○インタビュー場面を設定したこともあり、会話への抵抗なく積極的にとりくみ、会話量も増えた。また、苦手意識をもっている児童も、繰り返し練習やインタビュー場面での役割分担により、会話量を確保できただけでなく、自信をもって会話に取り組むことができた

●書く活動にも取り組んでいるが、単元を通しての書く活動に課題を感じる。今後のとりくみを通してより良い方法を探っていきたい

4. 公開研究会（平成30年1月26日実施）における展開授業

（1年生の実践）

1. 単元名 What Makes a Rainbow? ～すきないろで、にじをつくろう～

2. 単元の目標

○様々な色の表現や欲しいものを伝えたり、相手が持っているものを尋ねたりする表現に慣れ親しむ

（知識・技能）

○自分の欲しい色を伝え、相手がその色を持っているか尋ねたり、回答の肯定否定を判断したりする

（思考・判断・表現）

○英語で相手の持っている色を進んで尋ねようとしている

（学びに向かう力）

3. 指導計画

時	内容	主な活動	主な評価（観点）
第1時	○絵本「What Makes a Rainbow?」から、色や欲しいものを伝える表現に出会う	・拡大映像と指導者の読み聞かせから、絵本「What Makes a Rainbow?」の粗筋をつかむ ・既習の色表現やI want...の表現を想起するとともに、新たな色の表現に気づく	・既習の色表現やI want...の表現を思い起こしているか（知識・技能）
第2時	○友だちと欲しい色を伝え合い、I want...の表現に慣れ親しむ	・I want...の表現を使って、欲しい色を相手に伝える ・カラーバスケットにとりくみ、繰り返し欲しい色を相手に伝える	・自分が欲しい色を伝えているか （知識・技能）
第3時（本時）	○Do you have...?の表現を使って、オリジナルレインボーづくりの計画書を作る	・欲しいものを伝えたり相手に尋ねたりするミニアクティビティ（カード交換ゲーム）に取り組む ・Hello, I want... Do you have...?の流れを保ちながら、虹の計画書用に必要な色サンプルを手に入れる	・Do you have...?を使ってカラーサンプルを手に入れ、自分の虹づくり計画書を作っているか（思考・判断・表現）
第4時	○オリジナルレインボーづくりをする	・前時につくった計画書に従い、虹の材料を手に入れる ・I want... Do you have...?の表現を繰り返し使って、色の神様役の友だちや授業協力者と伝え合う	・計画書に従って、カラーモールドを集めているか（思考・判断・表現）
（帰休）	○自分で描いた理想の街に、つくったオリジナルレインボーを架ける	・つくったオリジナルレインボーを自分の街に架け、友だちと鑑賞し合う	

4. 本時の展開



<Color Chant>

前時までに学習した色の英語表現を想起させた



<絵本の振り返り>

本単元を通して扱ってきた、色やI want...の表現を振り返った



<HRTとALTによるPresentation>

信号機づくりを使って、Do you have...?の表現に出合わせ、意味や音声に気づかせた



<カード交換ゲーム>

5枚の異なった色カードをそろえる活動を通して、Do you have...?の表現に慣れ親しませた



<虹の計画書づくり>

自分で選んだ7色の虹をつくるため、計画書に貼る色カードを集めさせる



<Reflection>

本時に扱ったI want... Do you have...?の表現を再度振り返らせる

1. 単元名 This Is My Favorite Place ～お気に入りの場所を紹介しよう～

2. 単元の目標

○like 以外に気に入っているものを尋ねたり答えたりする言い方があることに気付くとともに、身の回り建物や施設の言い方に慣れ親しむ (知識・技能)

○自分の気に入っている場所について、地図を使って案内したり、理由も含めて伝えたりする

(思考・判断・表現)

○相手に配慮しながら、自分の気に入っている場所について、理由も含めて伝えようとする

(学びに向かう力)

3. 指導計画

時	内容	主な活動	主な評価 (観点)
第1時	○身の回りの建物や施設の言い方を知る	・自分の気に入っている場所を紹介する表現に出会う ・キーワードゲームや What's missing ゲームを通して、建物や施設の言い方に慣れ親しむ	・身の回りの建物や施設の言い方に慣れ親しんでいるか (知識・技能)
第2時	○道案内をする言い方を知る	・場所を地図上で案内する表現に出会う ・チャンツやゲームを通して、道案内をする言い方に慣れ親しむ	・地図を使って道案内をしているか (思考・判断・表現)
第3時	○気に入っているものを尋ねたり答えたりする言い方を知る	・気に入っているものを尋ねたり答えたりする言い方に出会う ・チャンツやゲームを通して、気に入っているものの尋ね方や答え方に慣れ親しむ	・like 以外に、好きなものを尋ねたり答えたりする言い方があることに気付いているか (知識・技能)
第4時 (本時)	○自分が気に入っている場所について、自分の理由も含めて伝えることに慣れ親しむ	・チャンツを通して、気に入っている場所の尋ね方、答え方に慣れ親しむ ・なぜその場所がお気に入りなのか、既習表現を使って伝える	・自分の気に入っている場所について、理由も含めて伝えているか (思考・判断・表現)
第5時	○自分の気に入っている場所について、自分の理由も含めて伝える	・チャンツを通して、気に入っている場所の尋ね方、答え方に慣れ親しむ ・相手に配慮しながら、自分の気に入っている場所とその理由を写真と地図を活用しながら伝え合う ・ALT に自分のお気に入りの場所を紹介する	・相手に配慮しながら、自分の気に入っている場所について、理由も含めて伝えようとしているか (学びに向かう力)

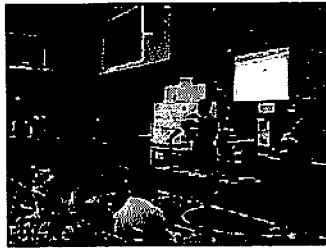
4. 本時の展開



<Communication & Reaction>
既習の会話表現を使って、積極的に発話する雰囲気づくりを行った



<Interview Activity①>
始めに、小グループで会話のやり取りを確認させた



<Presentation>
ALT と HRT による、自分のお気に入りの場所について紹介する会話を聴かせた



<Interview Activity②>
出会った人に自分の気に入っている場所を繰り返し紹介させた



<好きな場所紹介 Chant>
favorite の表現を強調しながら、お気に入りの場所を紹介する会話をチャンツで慣れ親しませた



<Reflection>
代表児童に本時に行ったお気に入りの場所を紹介する会話を前で行かせながら、表現を振り返らせた

1. 単元名 Where Is the Treasure? ~ Treasure Hunter ~

2. 単元の目標

○物の場所やその位置を表す表現の仕方を理解している (知識・技能)

○物の場所やその位置を尋ねたり答えたりする 簡単な語句を読んだり書き写したりする

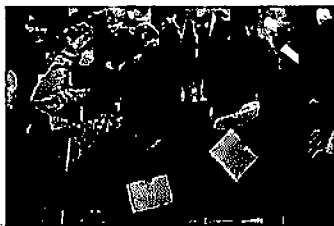
(思考・判断・表現)

○伝えたい相手を意識しながら、物のありかについて説明しようとする (学びに向かう力)

3. 指導計画

時	内容	主な活動	主な評価 (観点)
第1時	○宝探しの内容を知り、建物の言い方や建物の場所を尋ねる会話の仕方に触れる	・映像資料を視聴し、宝探しをする時の会話に出会う ・建物や教室の言い方を知り、キーワードゲームに取り組む	・映像資料から場面を想像し、建物や教室の言い方を理解しているか (知識・技能)
第2時 (M1・2)	○行きたい場所を尋ねたり答えたりする ○単語を読んで書く	・リズムボックスやゲームを通して、場所を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ ・ポインティングゲームを通して、単語を読んで書き写す	・建物の場所の尋ね方や答え方を理解しているか (知識・技能)
第3時	○行きたい教室へ道案内する言い方を知る	・ALT と HRT との会話から、道を案内する言い方を知る ・それぞれの教室の言い方を確認し、チャンツに取り組む ・リズムボックスや案内ミニゲームを通して、道案内の仕方に慣れ親しむ	・教室の場所を道案内したり、説明を聞いて場所を特定したりしているか (思考・判断・表現)
第4時 (M3・4)	○物の位置を表す言い方を知る	・ALT と HRT との会話から、物の位置を表す表現を知る ・ポインティングゲームや反応ゲームを通して、位置を表す表現の仕方に慣れ親しむ	・ある物の位置を表す表現の仕方を理解しているか (知識・技能)
第5時	○絵から自分の欲しい物を説明する	・絵を見ながら位置を表す語を使ってやり取りをする ・絵から自分の欲しい物の場所を書き写し、友だちに説明する	・欲しい物がどこにあるか書き写して、説明しているか (思考・判断・表現)
第6時 (M5・6)	○簡単な道案内をしながら宝を探し、自分の宝物カードを作る	・パターンミニゲームを行い、簡単な道案内の練習をする ・自分の宝物をカードに書いて完成させる	・宝の場所や位置を説明する表現の仕方や道案内の仕方を理解しているか (知識・技能)
第7時 (本時)	○「怪盗キッド」が隠した宝物を探す	・ダイレクションダンスやパターンミニゲームで宝探しの会話を復習する ・ヒントをもとに道案内をし、見つけたアルファベットを組み合わせて宝を探す ・宝の単語を書いて、相手に伝える	・宝がある部屋と宝の隠し場所を尋ねたり答えたりしているか、簡単な語句を読んだり書き写したりしているか (思考・判断・表現)
第8時 (M7・8)	○校内に隠された自分の宝物を探す	・パターンミニゲームで宝探しの会話を復習する ・隠された自分の宝物を友だちの説明を聞いて探す	・相手を意識しながら、宝の場所を説明しようとしているか (学びに向かう力)

4. 本時の展開



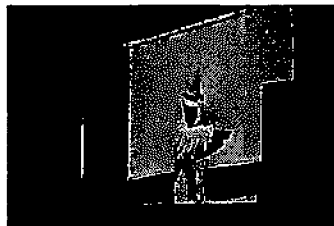
<フォニックス>

身振りをつけながら、文字と音素、その音を初頭音としてつかった単語に慣れ親しませた



<宝探し Activity①>

リーダーに指導者からもらったヒントカードに書かれているキーワードと位置をメンバーに伝えさせた



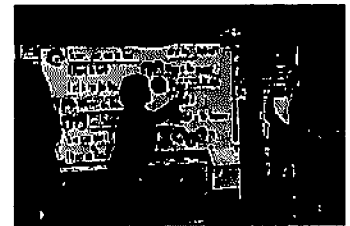
<Presentation①>

宝探しの動機付けと場面設定の理解のため、自作映像を提示した



<宝探し Activity②>

メンバーを道案内しながら、宝のある場所まで連れていき、単語カードの頭文字を記入させた



<Presentation②>

ALT と HRT の演示から、宝探しの際に使われる会話の流れをつかませ、チャンツ形式で慣れ親しませた



<Reflection>

たどり着いた場所で見つけたキーワードを組み合わせて出した答えを確認し、本時の振り返りを行った

★マークのしかた
0000 悪い 0001 良い

王子台小学校 英語学習についてのアンケート

みなさんに小学校での英語の学習についてお聞きします。正しい答えとかまちがった答えとかいうものはありません。友だちと相談せずに自分の気持ちに合うものに正真正正に○をつけてください。うらのページもありますので質問とばさらないように気をつけて答えてください。

答えを選ぶ質問は、白てはまるマーク○を塗りつぶして回答してください。
○: 空白マーク ○: 正しい塗りつぶし ⊗: 不十分な塗りつぶし
(1) と (6) の回答は、四角のわくからはみ出さないように記入してください。この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付たりしないように注意してください。

(1) あなたの名前を書いてください。
[]

(2) あなたの学年は?
 1年生 2年生 3年生 4年生 5年生 6年生

(3) あなたのクラスは?
 1組 2組

(4) あなたの出席番号は?
 1 2 3 4 5 6
 7 8 9 10 11 12
 13 14 15 16 17 18
 19 20 21 22 23 24
 25 26 27 28 29 30
 31 32 33 34 35 36
 37 38 39 40

(5) ここから質問が始まります。どの質問にも1つだけマークしてください。

	どれくらい苦手がか とても かなり あまり ほとんど 苦手が 苦手が 苦手が 苦手が かかっている かかっている かかっている かかっている			
1 英語を勉強して、世界のいろいろな人たちと会って、話をしてみたいです。	0	0	0	0
2 英語を勉強して、世界のいろいろな人たちやその人たちの暮らしについて知りたいです。	0	0	0	0
3 英語を勉強して、世界のいろいろな国の人たちといっしょに仕事が出来たいです。	0	0	0	0
4 学校に外国から来た友だちがいたら、話しかけようと思います。	0	0	0	0

★マークのしかた
0000 悪い 0001 良い

	どれくらい苦手がか とても かなり あまり ほとんど 苦手が 苦手が 苦手が 苦手が かかっている かかっている かかっている かかっている			
5 もし、自分に外国の友だちができてしばらく自分の家に泊まることになったらいいと思います。	0	0	0	0
6 もし、近くに外国の人たちが住んでいたら、親切にしたいと思います。	0	0	0	0
7 レストランや駅で日本語のできない外国の人たちがこまっていたら、助けてあげたいと思います。	0	0	0	0
8 日本だけでなく、いろいろな国に住んでみたいです。	0	0	0	0
9 外国の人たちがたくさんいるところで、はたらいみたいです。	0	0	0	0
10 外国で、困っている人を助けるためにはたらいみたいです。	0	0	0	0
11 よくテレビやインターネットで海外のニュースを見ます。	0	0	0	0
12 よく新聞や本で海外のできごとを読みます。	0	0	0	0
13 よく家族や友だちと海外のできごとについて話します。	0	0	0	0
14 よく海外のニュースやできごとを耳にします。	0	0	0	0
15 よく海外のニュースやできごとをしらべます。	0	0	0	0
16 英語の字ぶことはワクワクします。	0	0	0	0
17 もし英語の時間にわからないことがあったら、先生に質問します。	0	0	0	0
18 英語の時間には先生の質問にいつも答えます。	0	0	0	0
19 おうちの人は私に英語の時間に何をしたら聞いてきます。	0	0	0	0
20 将来、いい仕事につくために英語の勉強は役に立つと思います。	0	0	0	0
21 新しい友だちがなかなかできないと思うことがあります。	0	0	0	0
22 自分から友達で友だちもつことが少ないです。	0	0	0	0
23 自分はどちらかというとだれとでもよく話すタイプだと思います。	0	0	0	0
24 人が大がいているところでも、とまどいまひん。	0	0	0	0
25 いろいろな人と友だちになれるのが楽しみです。	0	0	0	0
26 どんな人でも友だちになれるのが好きです。	0	0	0	0
27 英語の時間に、初めてのグループになって英語を話すとしたら、緊張すると思います。	0	0	0	0
28 英語の時間に自分から手をあげるのは、はずかしいです。	0	0	0	0
29 先生の英語の質問に、英語で答えなくてはならないときには緊張します。	0	0	0	0
30 クラスの友だちは、私より英語を話すのがうまいので不安になります。	0	0	0	0
31 教室以外のところで英語を話さなくてはならないとしたら緊張します。	0	0	0	0
32 私が英語を話すクラスで友だちが笑うのではないかと心配になります。	0	0	0	0
33 初めて会った外国の人が一人なら、英語で話しかけようと思います。	0	0	0	0

★マークのしかた



No.	内容	英語の学習について		英語の活用について	
		よく でき ます	あまり でき ません	よく でき ます	あまり でき ません
34	知り合いの外国人が一人であれば英語で話しかけようと思います。	0	0	0	0
35	英語の時間に、みんなの前で、自分から手を挙げて英語を話してみようと思います。	0	0	0	0
36	英語の時間以外でも、友だち3~4人の前でも、英語を話してみようと思います。	0	0	0	0
37	英語を話せる日本人の知り合いが一人いたら英語で話しかけようと思います。	0	0	0	0
38	先生に英語で話しかけられれば、自分の名前を英語で言うことができます。	0	0	0	0
39	先生に英語で話しかけられれば、自分の好きなことを英語で言うことができます。	0	0	0	0
40	英語の時間に、英語をうまく使えます。	0	0	0	0
41	英語の単語や動詞の名前を聞いて、理解することができます。	0	0	0	0
42	授業中に、英語で先生が言ったとおりに聞くことができます。	0	0	0	0
43	授業中にわからないうことがあっても、英語で質問することができます。	0	0	0	0

(6) 英語の学習について意見や感想があったら、書いてください。

【本研究に関わる参考文献】

Canale M. & M. Swain. (1980). Theoretical bases of communicative approaches to second language testing. *Applied Linguistics*.

Gow, L., Kember, D. & Chow, R. (1991). The Effects of English Language Ability on Approaches to Learning. *Regional English Language Centre Journal*.

MacIntyre, P.D., Clement, R., Dornyei, Z., & Noels, K.A. (1998). Conceptualizing Willingness to Communicate in a L2: A Situational Model of L2 Confidence and Affiliation. *Modern Language Journal*.

物井尚子(2015)「日本人児童の WTC モデルの構築 —質問紙調査からみえてくるもの—」日本児童英語教育学会 (JASTEC)研究紀要第34号、1-20.